

2024_0308「オーロラと木星と天王星とすばる（写真）」日々の理科 3501号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

多くの地磁気、オーロラ、太陽観測の専門家の予想通り、今シーズンのオーロラは爆発的に明るく美しいです。特に太陽が春分点に近づく3月は、太陽風が比較的穏やかな状況でも、明るいオーロラが現れやすいと考えられています。これを「ラッセル・マクファーロン効果」といいます。先日も非常に明るいオーロラ（オーロラ・ブレイクアップ）が出現しました。実際に現地で肉眼で観望すると、雪面を緑色に照らすほどの明るさです。この写真にはオーロラを引き立てる「脇役」もたくさん写っています。

オーロラの左側に写っている輝星は「木星」です。その右にある3個の輝点を、私は「木星の衛星」かと思いました。しかし残念ながら、これはカメラを設置してある「駅長事務室」の「二重ガラス」に反射した「ゴースト」でした。画面の左上の屋根ぎりぎりに写っているたくさんの星は「プレアデス星団」です。日本では古来から「すばる」と呼ばれてきました。更に気を付けて見ると、木星とすばるの間に「天王星」も写っています。天王星は光度5.7等で、肉眼で見える太陽系天体では、最も遠い惑星です。

こういう「役者たち」を見ていると、東京からの遠隔観測だけでなく、今年「こそ」は、現地で観望したいと思ってしまう。

(2024年3月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

